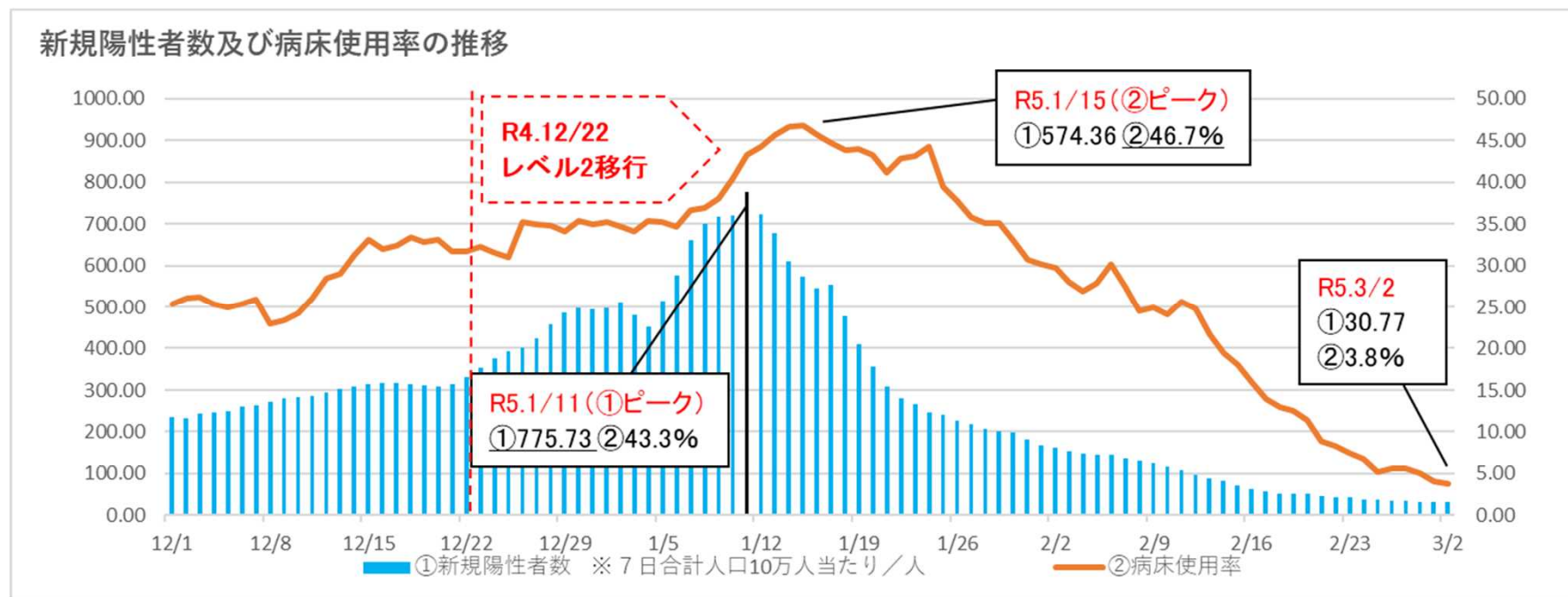


資料 2

警戒レベルの判断見直しに係る保健医療の負
荷状況について

足下の感染状況



意見聴取について

- 新型コロナウイルス感染症における沖縄県の警戒レベルについては、12月22日に病床使用率の指標が30%を超えたことや、保健医療への負荷状況の事象が悪化していることなどを総合的に判断のうえ、警戒レベル2に引き上げたところ。
- 以降、人口10万人あたりの新規陽性者数や病床使用率等は、1月中旬にピークをつけた後、減少に転じている。
- 一方で、季節性インフルエンザの流行状況は、7週連続で警報基準値超えとなっているものの、1月下旬をピークに減少に転じている。
- これら足下の感染状況が改善していることを踏まえ、現在の警戒レベル判断を見直し、レベル1に引き下げることについて検討したいと考える。
- ついては、警戒レベルを判断する際の事象の一つとなる「保健医療への負荷の状況」について、外来医療や救急医療、入院医療等における現在の状況について専門家からの意見を伺いたい。

警戒レベルの判断見直しに係る指標及び保健医療への負荷状況について

1.指標の状況

指標	令和4年12月22日 (レベル1→2移行時)	令和5年3月2日時点	備考
病床使用率	31.6%	3.8%	レベル1：30%以下
重症者用病床使用率	4.1%	0.0%	レベル1：30%以下

2.保健医療の負荷の状況

事象等	令和4年12月22日 (レベル1→2移行時)	令和5年3月2日時点 (県にて把握している数値等)
外来医療の状況	県立病院において、多くの機関では発熱・救急外来が逼迫がみられる状況にはないものの、一部の機関では発熱患者の増加がみられる。	県立病院において、一部の医療機関では救急外来の制限を継続しているものの、多くの医療機関で発熱患者の減少がみられている。
救急医療の状況	一部の医療機関で土日の小児救急患者の増加がみられるものの、現場に大きな負荷がかかっている状況ではない。	県立病院において、一部の医療機関で土日の小児救急患者が多い傾向が続いているものの、多くの医療機関で救急外来患者の減少がみられている。
入院医療の状況	重点医療機関の医療従事者の欠勤者は12月に入り200名を超える状況で推移しており、入院医療への負荷が高まっている。	重点医療機関の医療従事者の欠勤者は1月12日の463名をピークに減少し、3月2日時点で66名となっている。
社会福祉施設等療養状況	施設内療養者数は、12月20日時点で198名となっており、12月に入り増加している。	施設内療養者数は、1月15日の410名をピークに減少し3月1日時点で18名となっている。
インフルエンザの流行状況	非流行期（第49週 12/5-12/11 定点当たり 0.25人）	7週連続で警報発令基準値を超えているものの、第5週（1/30-2/5 定点当たり 47.18人）をピークに減少に転じている。（第8週 2/20-2/26 定点当たり 12.76人）
感染症専門家会議 委員意見	患者の増加による診療制限を行っている医療機関はないものの、地域によっては医療従事者の休業者の増加や院内感染の発生もみられ、保健医療への負荷は徐々に高まっていることから、レベル2への移行は概ね妥当である。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">今回意見聴取</div>

※ 警戒レベル移行については、指標及び保健医療の負荷の状況だけでなく、その他の事象「社会経済活動の状況」についても確認のうえ、総合的に判断する。